

2023 年度東京地学協会メダル授与理由

氏名：太田 陽子（おおた ようこ）
理学博士 横浜国立大学名誉教授
1928 年生

「海成段丘の研究に基づく変動地形学の構築および第四紀学への国際的貢献」

受賞理由：

太田陽子先生は、海成段丘の研究に基づき我が国の海岸地形を構成する基本概念となる変動地形学を構築するとともに、第四紀学研究の国際的発展に対し、多大なる貢献をした。プレート境界地震の発生メカニズムがまだよくわかっていない 1964 年に、故吉川虎雄先生、故貝塚爽平先生と共同で、土佐湾沿岸の海成段丘面の研究から、ユースタティックな海面変動とテクトニックな地殻変動の組み合わせで段丘面が形成されることと、繰り返される地震時の地殻変動が第四紀後期を通じて累積していることを示した。これは、その後の地震時の地殻変動と地形形成との関係に関する研究の基本的なパラダイムとなった。さらに、1970 年代からは地震 1 回ごとの隆起が識別できる完新世の旧汀線地形に注目した古地震・海面変動の研究でも多くの成果を挙げ、1980 年代以降はトレンチ調査による断層活動歴の研究も積極的に展開した。このような研究のフィールドは、日本国内にとどまらず、ニュージーランド、パプアニューギニア、チリ、アメリカ西海岸、台湾など、環太平洋の各地に及ぶ。

これらの一連の研究の成果は、地震調査研究推進本部地震調査委員会による長期評価にも参照された。また、地震調査研究推進本部の計画によって国内各地で行われたトレンチ調査や、フィリピン海プレートの沈み込み帯や日本海東縁の地震テクトニクス of 解明を目指す国の研究プロジェクトにおいても、指導的立場に立って調査・研究を牽引した。

また、「変動地形を探る（全 2 巻）」（古今書院）、「日本の地形 6, 7」（東京大学出版会）、「日本列島の地形学」（東京大学出版会）などの優れた著書を出版し、地学の普及広報にも大きく貢献した。

このような同氏の研究や教育・普及活動は、国内外でも極めて高く評価され、数々の学術賞等を受賞し、国内外でも多くの重職を歴任してきた。1995～1999 年には国際第四紀学連合副会長、1998 年にはニュージーランド王立協会名誉フェローに選出、2004 年には日本地理学会名誉会員、2006 年には日本第四紀学会名誉会員、2007 年には国立台湾大学特聘講座教授、2009 年には日本活断層学会賞、2013 年には日本地理学会学会賞、2014 年には瑞宝中綬章叙勲、2015 年には日本地球惑星科学連合フェローに選出など、多くの受賞や役職就任歴がある。

以上のような、地学分野における極めて顕著な研究業績と、国際的な学術の発展への貢献により、東京地学協会は、太田陽子博士に東京地学協会メダルを贈呈する。